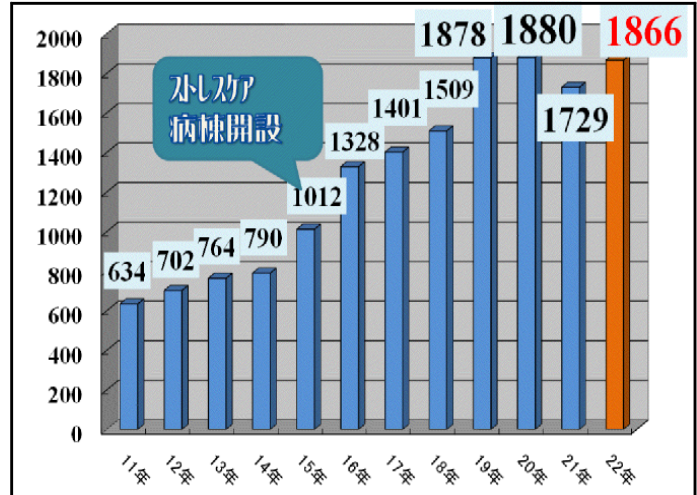


新患統計

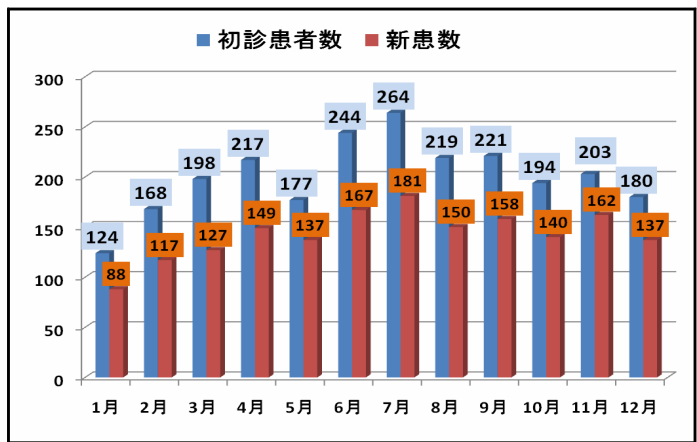
1 年度別新規患者数

年々、新規患者数は増加し、右肩上がりであったが、平成 21 年度は減少となった。札幌市内の精神科クリニックの増加や他の精神科医療機関の診療の充実などが影響しているものと思われる。平成 22 年度は 1866 人と前々年度なみとなった。外来は多く、ペー待合室での混雑時に如何に楽しくつらいで頂けるかが今後の課題でもある。



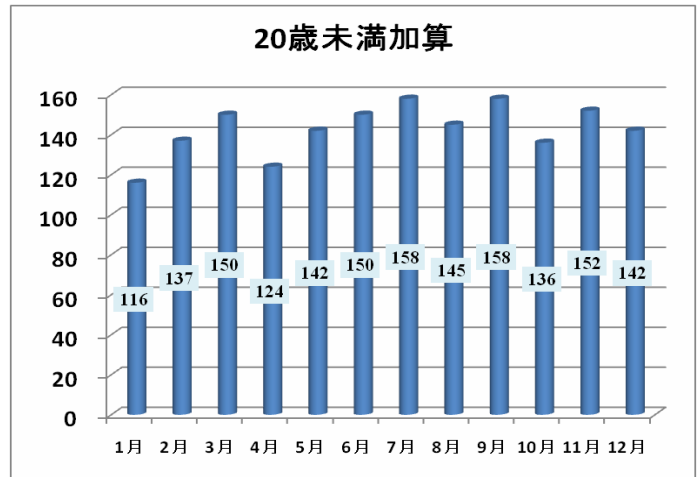
2 月別初診 新規患者数

初診患者が多いのは4月、6月、7月、8月、9月である。例年12月、1月～3月は少ない傾向にある。冬場は余り外に出たがらないのもあるが、外来においても同様である。5月は連休の影響もあり、初診、新規患者数とも減少する。8月は夏休みもあり受診者は減少している。1月に比べると7月は2倍以上の受診者となっている。



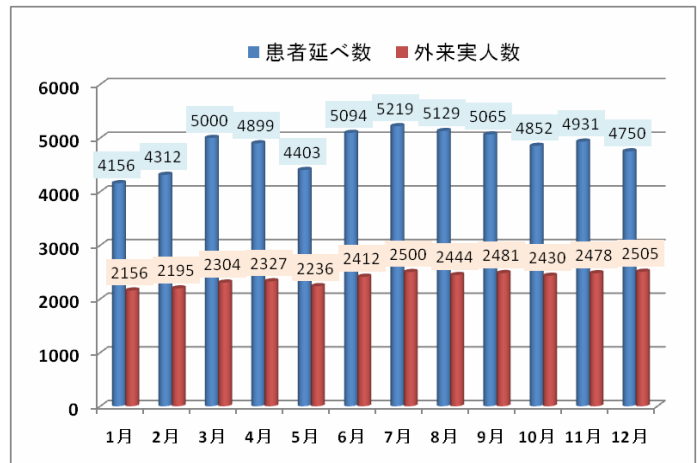
3 20歳未満加算数

20歳未満の受診者には診療報酬では加算算定ができる。平成 20 年 4 月の改訂で、加算要因が初診から 6 ヶ月が 12 ヶ月に延長になった。平成 22 年度は 1,710 件と前年、前々年よりも減っている。ちなみに、平成 16 年度 513 件、平成 17 年度 650 件、平成 18 年度 940 件、平成 19 年度 1,222 件、平成 20 年は 2,393 件、平成 21 年度は 2,076 件である。他の病院でも思春期患者を診るようになっているせいかもしれない。



4 月別患者延べ数、外来実人数

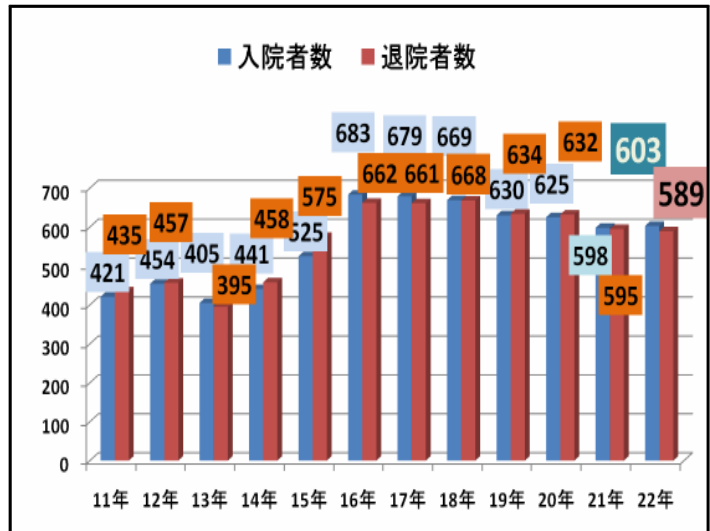
当院で診療している月別の患者延べ数を示す。平均して月に 4,818 人である。患者の月別の実人数は 2,372 人と平成 21 年の 2,317 名、平成 20 年 2,150 名、平成 19 年 1,862 名と着実に人数が増えている。1日平均患者数、平均実数は 160 人である。多い日には 200 人を超える。医師が増員になり、待ち時間も解消できれば良いかと考えている。混雑時には、喫茶などでお待ちになって頂きこともある。



入院患者統計

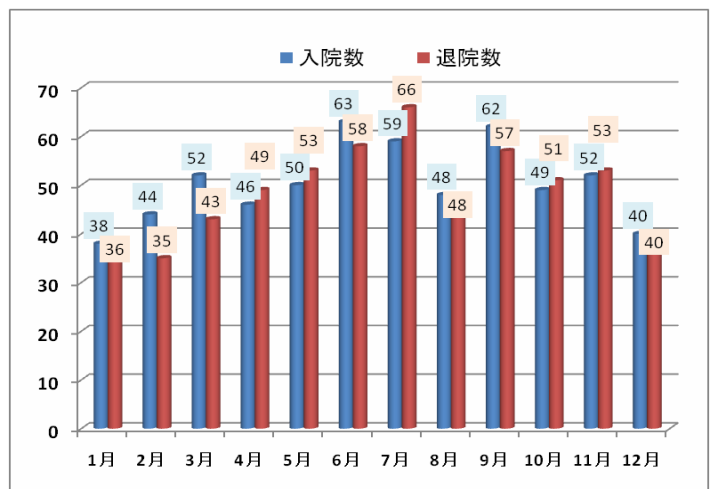
1 年度別入院者 退院者数

平成 11 年～ 14 年までは 400 人台で推移していたが、平成 15 年 10 月にストレス病棟がオープンした平成 15 年には 500 人を越え、平成 16 年 2 月に急性期病棟がオープンし、受入れ体制が完備した平成 16 年度からは入院・退院ともに 600 名を越えた。しかし、平成 21 年度は 598 人と平成 15 年以来の 600 人割れとなった。平成 22 年度は入院は 603 人であったが、退院は 589 人と 600 人を切っている。スーパー救急を目指して、700 人前後の入院、退院者数の予想をしている。



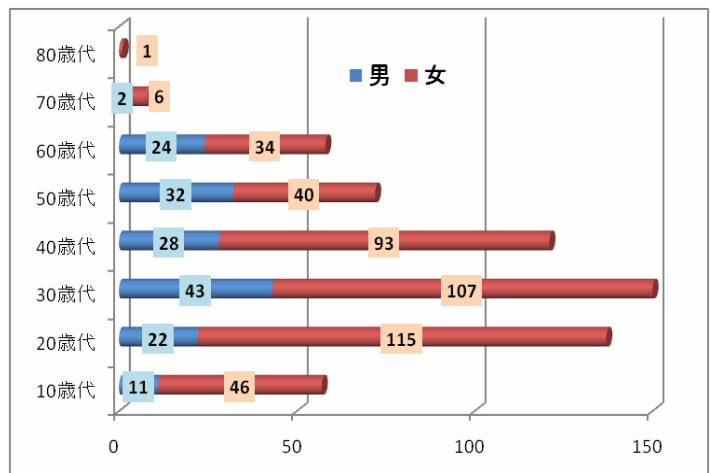
2 月別入院者 退院者数

月別の入院・退院者で最も多いのは 7 月であった。6,7,9 月が多い月である。逆に少ない月は、1 月、2 月、12 月である。これは例年同様である。病床稼働率からのみ考えると、ある程度の病床利用があって、しかも月の入院退院者数が同じであることが理想である。平成 22 年 4 月からの全体ミーティングでのベッドコントロールはまだまだ十分に機能はしていないが、急性期患者さんの受入れスムーズにする算段も必要になってくる。



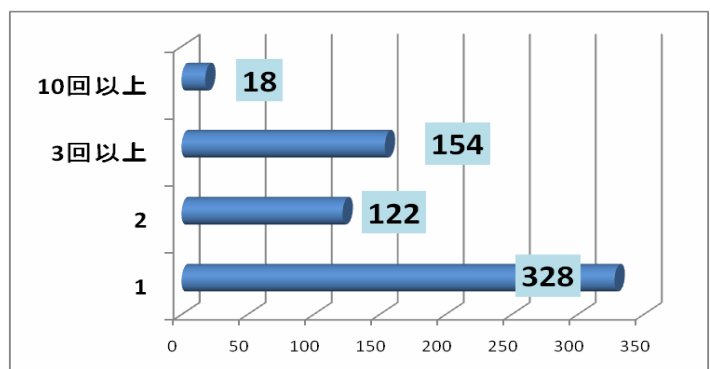
3 性別 年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が圧倒的に多く 7 割を超える。男性の 3 倍以上の入院者である。入院者の年齢は 12 歳から 79 歳までで平均年齢は 37.6 歳と前年の 37.7 歳と同様である。最も多いのは 30 歳代で、次いで 20 歳代である。20,30 歳代で半数を占めている。10 歳代は 9.4 %と 1 割を占める。30 歳代までで 6 割、40 歳代までで 7 割 7 分、50 歳代までで 9 割を占め、70 歳以上は 9 人のみであった。



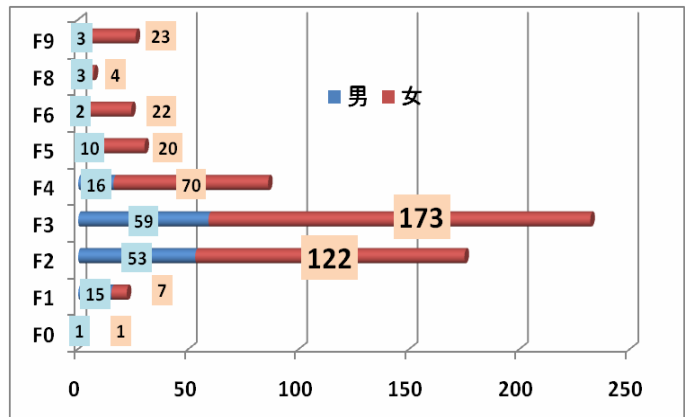
4 入院回数

初回入院が 328 名 (54.3 %) である。2 回目 122 (20.2%)、3 回以上は 154 人 (25.5%)、10 回以上の入院者は 18 人 (3.0%) であった。新規入院 (精神科入院歴が 3 ヶ月以内にない場合) は 533 人 (88.2%)、非新規が 71 人 (11.8%) である。スーパー救急を目指すのであれば、非新規入院の割合を如何に減らすかが必要になってくる。



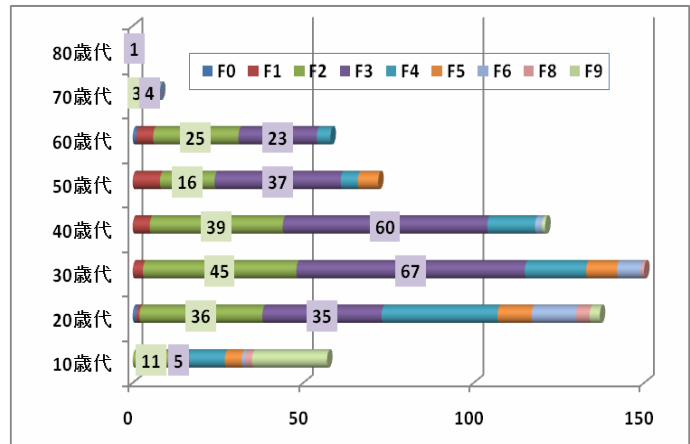
5 入院時診断

最も多いのは F3（気分障害）で 232 人（38.4%）と半数弱を占める。次いで F2（統合失調症圏）が 175 人（29.0%）と 3 割を占める。F4（神経症圏）は 86 人で 14% である。年々、神経症圏が増えている。F6（パーソナリティ障害）は 24 人（4.0%）で最近の傾向としては減少している。他 F1（アルコール依存症）は 22 人、摂食障害等の F5（生理的障害）は 30 人と摂食障害の患者が増加している。



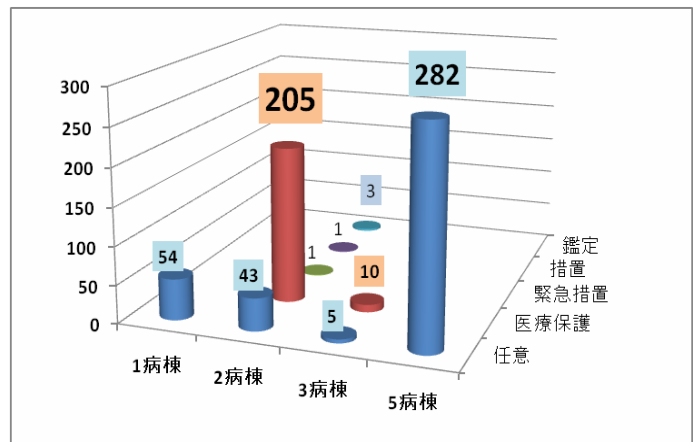
6 年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20 歳代から 60 歳代にわたって F3 の気分障害が多い。F2(統合失調症圏) 20 歳代から 60 歳代まで幅広く分布する。F4（神経症圏）は 10 歳代、20 歳代はが目立つ。30 歳代は F3、F2 の比率が高。最近問題になっている 30 歳代のディスチミア親和型うつ病患者数の増加してるようである。F6（パーソナリティ障害）は 20 歳代が多い。F1（アルコール依存症）は 50 歳代に多い傾向にある。



7 入院形態・入院病棟

任意入院が 6 割強、医療保護入院が 3 割強であるのは前年度と同じである。措置入院は 1 人と前年の 2 人、前々年の 5 人よりも減っている。受入体制は整っているのだが措置症例の減少は全国的な傾向である。医療観察法の鑑定入院が 1 人、起訴前の本鑑定が五稜会病院では初めて開始し 2 人の入院があった。入院病棟は 5 病棟・2 病棟が 4 割ずつを占める。1 病棟は 54 人、3 病棟は 15 人を受け入れた。



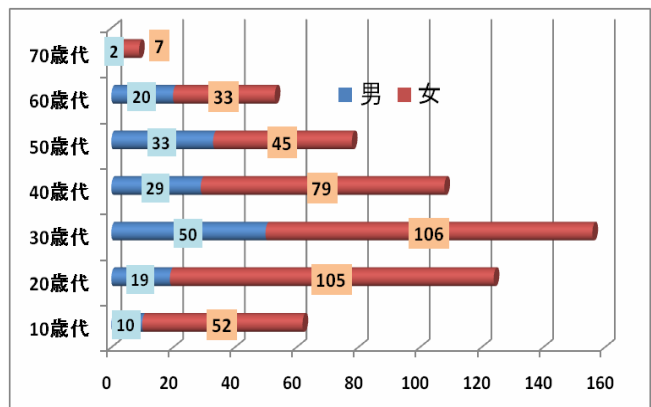
退院患者統計

1 年度別退院患者数

年度別の退院者数は年々増加したが、平成 21 年度は平成 15 年以来の 500 台となった。平成 22 年度も 589 人と 600 人は切っている。退院者数は入院数に相関する。

2 年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 12 歳～ 79 歳、平均年齢 38.2 歳で、年齢層は例年通りである。年代別では 20 歳代～ 30 歳代が多い。10 歳代は 62 人（10.5%）と前年度並である。70 歳代は 9 人（1.5%）のみで少ない。性別では女性が 7 割以上を占める。年代別では 10 歳、20 歳代で女性の比率が高い。

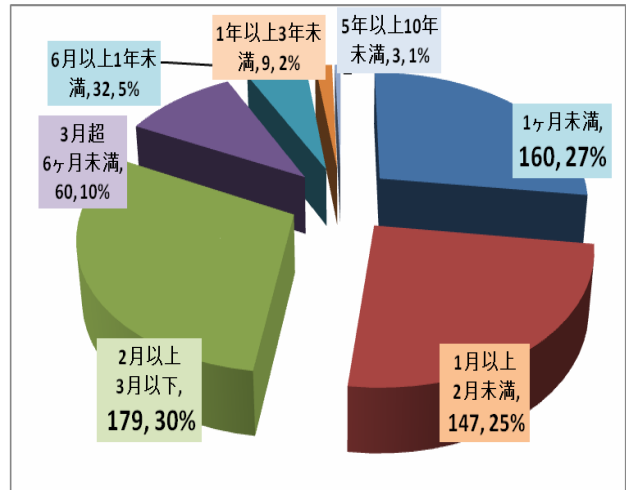


3 入院回数

1～19回、平均入院回数 2.4 回である。初回入院者は 315 人で 53.4 %を占める。再入院のうち、2回が 20.5%、3回が 8.6 %、4回が 5.3 %、5回以上の入院者は 72 人(12.2%)であった。

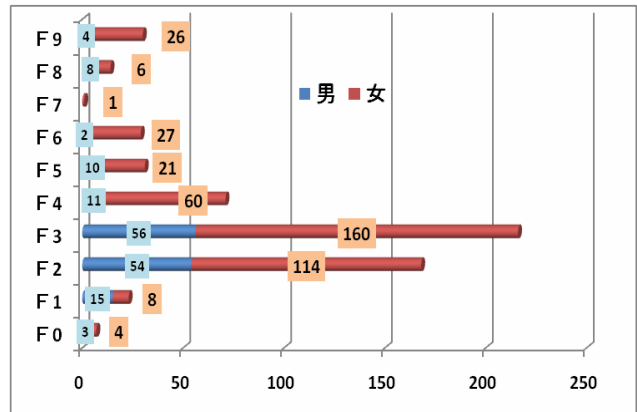
4 入院期間

2～3,297 日、平均 87.9 日である。期間別では 1ヶ月未満が 27.1 %、1ヶ月以上2ヶ月未満が 24.9 %、2ヶ月以上3ヶ月未満が 30.3%、3ヶ月超6ヶ月未満が 10.2 %、6ヶ月以上1年未満が 5.4 %、1年以上3年未満が 1.5 %、3年以上が 3人、0.5%であった。1ヶ月以内に 1/3 が退院し、2ヶ月以内に半数、3ヶ月以内に 8割が退院する。3年以上の入院期間であったのが 3人であるが、このうち 1人は自宅退院、1人は循環器疾患の検査のための転院で再入院している。もう 1人は実家が遠方であり、地元精神科病院に入院となった。



5 退院時診断

F3（気分障害）が最多で 36.6%、これは前年度と同数字である。次いで F2（統合失調症圏）が 28.5 %である。F4（神経症圏）が 12.0 %であった。F1（アルコール依存症等）は 23 人(3.9%)と減少、F6（パーソナリティ障害）29 人(4.9%)と少なくなっている。F5（摂食障害等）は 31 人(5.3%)と増加傾向である。F0（認知症）は 7 人(1.2%)のみである。



6 退院者の入院時および退院時の入院形態

退院時に医療保護入院は 123 人（20.8%）である。そのうち 6 人は任意入院で入院した患者であった。途中で病状悪化のために医療保護入院に変更になったものである。入院時の入院形態は任意入院が 65.8%を占め、33.6 %が医療保護入院である。措置入院のケースは 2 人、医療観察法と起訴前鑑定入院が 2 人であった。

		入院時の入院形態				
		任意	医療保護	措置	鑑定入院	総計
退院時の入院形態	任意	382	81	1		464
	医療保護	6	117			123
	措置			1		1
	鑑定入院				2	2
	総計	388	198	2	2	590

7 退院および入院した病棟

実に 51.7 %と半数は 5 病棟からの退院である。5 病棟からの退院者の 37 人は 2 病棟入院後に 5 病棟に転棟して退院となっている。2 病棟からの退院は 23.1 %と前年と同様である。1 病棟からの退院は 116 人（19.7%）、2 割が退院している。1 病棟からの退院者は半数の 55 人が 2 病棟入院後に 1 病棟に転棟しての退院である。3 病棟からは 33 人（5.6%）が退院した。スーパー救急認可に向けて病床の病棟間にとらわれない病床管理が必要である。

		入院した病棟					
		1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	総計	%
退院時の病棟	1病棟	48	55	5	8	116	19.7%
	2病棟	3	130	2	1	136	23.1%
	3病棟	3	18	11	1	33	5.6%
	5病棟	2	37		266	305	51.7%
	総計	56	240	18	276	590	100.0%
	%		9.5%	40.7%	3.1%	46.8%	100.0%

8 自殺企図、保護室管理の有無等

入院形態が変更になっているのは 104 人(17.6%)である。多くは医療保護入院から任意入院への切替である。保護室入室者は 97 人 (16.4%)、リストカット、大量服薬の自傷行為・自殺行為は 29 人(4.9%)、内科合併症 (comorbidity)を有する例が 104 人と 17.6%を占めていた。Personality disorderの併存 35 人(5.9%)であった。

9 転帰

軽快退院が 90 %を占める。治療中断例が 12 人 (2.0%)、不変が 37 人(6.3%)であった。この数字は前年度と同様である。退院後に外来に繋がるのは 472 人と 3/4 を占める。このうちデイケアにつながるのは 100 人 1 (16.9%)と前年土よりも多数であった。最近はコロナだけではなく、ミグループのティアラ、チャールへのデイケア通所者が増加している。他の医療機関への転入院は 17 人、外来は 94 人である。

平成 23 年 2 月 20 日、第 36 回札幌市医師会医学会で中島公博が発表した「民間の単科精神科病院における急性期医療の現状」の中で病棟間移動について整理したので資料として掲載する。

		外来			
退院状態	無	有	総計	%	
軽快	92	449	541	91.7%	
治療中断	7	5	12	2.0%	
不変	19	18	37	6.3%	
総計	118	472	590	100.0%	
		転院			
転院	無	有	総計	%	
外来	94	27	121	20.5%	
入院	17	3	20	3.4%	
入所	1		1	0.2%	
無	6	442	448	75.9%	
総計	118	472	590	100.0%	
		デイケア			
デイケア	無	有	総計	有の%	
無	118	372	490	83.1%	
有		100	100	16.9%	
総計	118	472	590	100.0%	

病棟間移動(転棟者)

平成20年度

病棟	新入院	転出	転入
1病棟	81	34	94
2病棟	252	171	44
3病棟	40	49	71
5病棟	252	20	65
総計	625	274	274

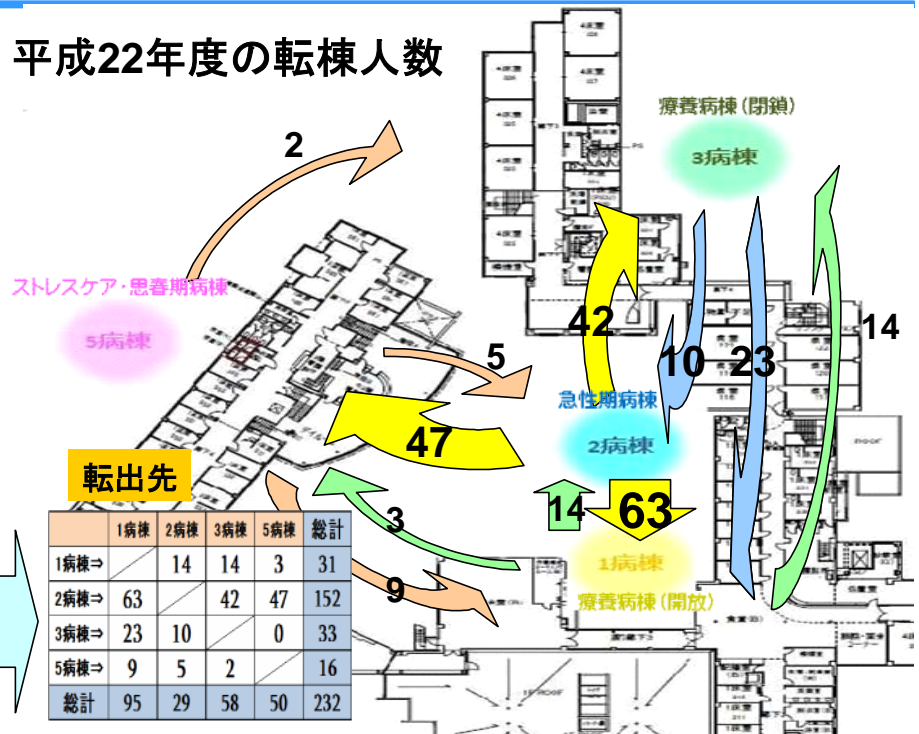
平成21年度

病棟	新入院	転出	転入
1病棟	63	28	82
2病棟	246	159	34
3病棟	32	42	65
5病棟	257	16	64
総計	598	245	245

平成22年度

病棟	新入院	転出	転入
1病棟	54	31	95
2病棟	253	152	29
3病棟	15	33	58
5病棟	282	16	50
総計	604	232	232

平成22年度の転棟人数



- 病状により急性期病棟からストレスケア病棟、開放病棟⇒閉鎖病棟間の移動
- 病棟の特性を利用した治療構築、病状改善のステップアップに繋がる。
- 転棟、移動の不便・煩雑さ、手続きの手間、転棟後の病状不安定。

平成 16 年度 4 月から札幌市の精神科救急医療システムが変更になり、精神科救急情報センターが設置されることになった。五稜会病院はこのシステムに参画し、札幌市の精神科救急医療に寄与している。また、平成 19 年 2 月には中島公博が札幌市医師会医学会において「民間の単科精神科病院における精神科救急および時間外診療」の演題で発表を行った。平成 23 年 2 月には同じく同医学会において、中島公博が「民間の単科精神科病院における急性期医療の現状」の演題で発表した。

「札幌市精神科救急情報センター」

札幌市民のための情報センターとしての位置付けである。情報センターは、病院の紹介及び振分け機能と相談員 2 名（精神科病院勤務経験者の看護師・精神保健福祉士等）による相談機能を有し、患者本人及び家族・病院・関係機関との調整を図る。これまでの夜間急病センター窓口を中心とした体制から、情報センター中心の体制に変更となっている。情報センターの電話番号の周知、合併症患者及び自殺未遂者への対応について、これまでと同様に連携を図る。

平成22年度の救急当番病院での実績

概ね、月 1 回の救急当番病院となる。平成 22 年度は 13 回の救急当番を実施した。土曜日が 2 回、日曜日が 2 回、他は平日である。救急当番で特にトラブルになったケースはなかった。当直医は交代で行っている。非指定医が当番の場合には応援の指定医を定めている。緊急事態発生時は応援可能な医師に連絡をする。受入患者対応の基本的方針はあくまでも救急当番病院としての役割を担うことであるので、かかりつけの病院・クリニックがある場合には後日、当該病院に受診してもらうことを勧める。入院が必要になった場合にも、翌日改めて治療契約の見直しを図ることが必要である。

札幌市は精神科救急の体制を新たに作ろうとしている。当然ながら、スーパー救急も視野に入れている。当院としても時流に乗り遅れないような対応を取っていくつもりである。

救急当番(輪番制)と時間外受診

平成20年～22年度
輪番制の救急当番での実績

平成20年	回数	電話	外来者	入院
平日	10	2	7	2
土曜日	2	0	5	2
日曜日	2	2	4	0
計	14	4	16	4
平成21年	回数	電話	外来者	入院
平日	8	5	9	3
土曜日	2	3	2	1
日曜日	3	6	11	1
計	13	14	22	5
平成22年	回数	電話	外来者	入院
平日	9	6	8	0
土曜日	2	2	4	2
日曜日	2	2	4	1
計	13	10	16	3

平成22年度
時間外電話相談・時間外受診・救急車

平成22年度	電話相談	時間外受診	救急車
1月	121	12	4
2月	104	15	2
3月	95	7	2
4月	100	11	7
5月	113	12	4
6月	85	10	10
7月	170	27	15
8月	149	21	10
9月	116	12	10
10月	146	14	6
11月	178	15	3
12月	131	13	5
計	1508	169	78

- 精神科救急(輪番制)は月1回程度、外来者は1人強、入院は年に3-5人である。
- 時間外の電話相談が1日数件ある。時間外受診者は年に170名、救急車来院80件。

1 対象

平成 22 年 1 月～ 12 月までの退院者 590 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 438 人(74.2.0%)を対象に分析を行った。回収率は前年度と同様である。なかなか 80 %を超えない。回収率は入院治療の満足度の高さの証明でもあり得るのでさらなる回収率向上を図りたい。1 病棟、3 病棟の療養病棟で高い数字である。2 病棟、5 病棟の回収率が低いのは何故であろうか。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。なお、調査対象からは認知症、脳器質性疾患、緊急の転院、入院 2 日以内を除く。

満足度調査				
退院病棟	有	無	総計	%
1病棟	95	21	116	81.9%
2病棟	100	36	136	73.5%
3病棟	27	6	33	81.8%
5病棟	216	89	305	70.8%
総計	438	152	590	74.2%

対象者の基礎データ

438 人

年齢 12 歳～ 79 歳 平均 37.7 歳

性別 男 = 118(26.9 %)

女 = 320(73.1 %)

入院期間 2～ 3,297 日 平均 90.4 日

入院回数 1～ 19 回 平均 2.4 回

初回 = 240 (54.8%)、2 回目 = 92 (21.0%)、

3 回以上 = 106(24.2%)

診断別・入院形態

F3 (気分障害圏) が最多の 4 割弱を占める。F2 (統合失調症圏) は 3 割、F4 (神経症圏) の 1 割強の順である。入院時の入院形態は 6 割が任意入院で医療保護入院は 4 割弱である。措置入院者が 1 人であるが、退院時には任意入院に変更になっている。

F分類	男	女	総計	%
F0	2	3	5	1.1%
F1	11	4	15	3.4%
F2	38	91	129	29.5%
F3	48	118	166	37.9%
F4	8	48	56	12.8%
F5		10	10	2.3%
F6	1	18	19	4.3%
F7		1	1	0.2%
F8	6	5	11	2.5%
F9	4	22	26	5.9%
総計	118	320	438	100.0%
%	26.9%	73.1%	100.0%	

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度

CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)

2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明

3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価

4. 入院生活の快適さ

5. 家族の評価 等の調査を行っている。

退院形態				
入院形態	任意	医療保護	総計	%
任意	275	3	278	63.5%
医療保護	67	92	159	36.3%
措置	1		1	0.2%
総計	343	95	438	100.0%
	78.3%	21.7%	100.0%	

1	2	3	4
よくない	まあまあ	よい	とてもよい
全くない	そうでもない	だいたい	大いによい
絶対ない	しない	する	絶対する

3 結果

3-1 全体的満足度、スタッフ評価、環境等

次ページ表の数字の%は「良い」「大変良い」の両者を合計したものを表す。「効果的な対処」が最も高く、93.2 %が満足したと回答した。これは前年度の 88.4 %よりも大幅に高い数字である。「全体的な満足度」は 83.5%である。前年度の 85.4 %であり、前々年度の 88.2 %よりも低下している。他に 8 割を越えているのは「望んだ治療か」「推薦するか」である。最も低いのは「必要とした治療か」で 63.0%である。精神科医療への期待度が高いとどうしても不満と答える方が増えてしまう。入院時の説明が重要と思われるが、8 割の方が満足していると回答している。家族の「全体的な満足度」は 93.9 %と高い値になっている。心強い数字である。

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
1治療の質	9	102	180	112	292	72.5%	35	438
2望んだ治療か	8	64	232	96	328	82.0%	38	438
3必要としたか	8	140	173	79	252	63.0%	38	438
4推薦するか	9	49	268	71	339	85.4%	41	438
5時間をかけた援助	18	67	192	122	314	78.7%	39	438
6効果的な対処	6	21	221	149	370	93.2%	41	438
7全体の満足	11	55	227	106	333	83.5%	39	438
8治療に戻るか	21	73	237	58	295	75.8%	49	438
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
9事務員の対応	11	102	172	114	286	71.7%	39	438
10看護婦	8	73	160	159	319	79.8%	38	438
11医師	17	77	156	146	302	76.3%	42	438
12他のスタッフ	4	50	167	171	338	86.2%	46	438
環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
13入院の説明	12	49	178	142	320	84.0%	57	438
14入院中の説明	11	54	183	141	324	83.3%	49	438
15入院生活の快適さ	35	132	139	85	224	57.3%	47	438
16a病室の広さ	29	83	230	52	282	71.6%	44	438
16b廊下幅	31	71	227	64	291	74.0%	45	438
16cテイルーム	22	80	207	82	289	73.9%	47	438
16d作業療法室	48	103	186	41	227	60.1%	60	438
16e壁の色	7	85	243	54	297	76.3%	49	438
16f緑の多さ	24	107	162	95	257	66.2%	50	438
16g臭い	21	86	216	67	283	72.6%	48	438
16h清潔度	10	68	192	121	313	80.1%	47	438
17医療費	33	99	207	12	219	62.4%	87	438
家族	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	%	(空白)	総計
21入院説明	4	10	110	200	310	95.7%	114	438
22入院中の説明	6	32	163	115	278	88.0%	122	438
23事務員	2	67	183	84	267	79.5%	102	438
24看護婦	1	35	169	124	293	89.1%	109	438
25医師	4	51	149	128	277	83.4%	106	438
26他のスタッフ	0	36	163	108	271	88.3%	131	438
27医療費	10	84	211	7	218	69.9%	126	438
28全体の満足	2	18	179	130	309	93.9%	109	438

職種別では医師への満足度が 76.3 % (77.2 %)、看護師が 79.8 % (83.3 %) (括弧内は平成 21 年度)。また、いつも高い他のスタッフ (PSW・心理士・作業療法士・薬剤師) への満足度が 86.2 % (86.1 %)。医師、看護師への評価は厳しい。事務は前年度の 74.7 から 71.7 % になった。